

## 中2夏の学校2日目：A・B・C組

中2夏の学校2日目は、中2の7クラスが6コースに分かれ、長野県県北地域の様々な場所を訪れました。

中2担任団のうちの1名は、以前長野県の研究機関で研究員をしていた経歴があります。

その経験から、長野県の自然や地域の人々を相手に日々奮闘されている方々の実際の姿を、ぜひ中学生の生徒達に見てもらいたく思いました。そしてそこから研究者の心意気や、学芸員だからできる数々の工夫、地域に生きる方々の考え方に触れ、中学生の感性でそれらを感じ取ってほしい。そのような願いを込めて今回のコースを設定しました。

どのコースも現地の案内をお願いした皆様のアレンジで、当初の想定を大きく上回る素晴らしいものとなりました。生徒の感想とともに、その一端をご紹介します。

### 2年A組・B組：戸隠地質化石博物館

A組とB組は、長野市戸隠にある戸隠地質化石博物館を訪ねました。ご案内頂いたのは、田辺智隆さん（A組）と古賀和人さん（B組）。ここは、廃校となった小学校の校舎を利用して作られた博物館。展示にも教員ならではの視点を感じられます。動物の骨や皮、岩石や化石など、触って確かめるものがたくさん置いてあります。ハリネズミの毛皮もあり、ハリネズミに刺されるとどのくらい痛いのか？も確かめることができます。本物に触れて生徒たちは大興奮。「本物の動物の毛皮や骨を見ることはあまりなかったので見れてよかったです。クマの手で頭を触られたのが一番印象に残っています。」

昼食をはさんで博物館の見学と、近くにある化石の出る地層の見学が入れ替わります。地層は遠めで見ても、岩でないもの（＝化石）が地層に挟まっていることが分かりました。地層をだどって裏手に行くと、川を挟んだ反対側にも、同じ化石が出てくる層が続いています。石を割ると金色に光る粉が見え、まんじゅう石（＝ノジュール）も出てきました。「印象に残ったのは、地層は見えないだけで、隠されているだけで、本当は普段も自分たちはいつも地層の上をあるいているというお話です。」「（ご案内頂いた）田辺さんが自分の仕事から生き方を見出しているのがすごいと思いました。今までは地層や化石について全く知らなかったけれど、今回の活動を通してすごく興味を持ちました。」



## 2年C組：長野市立博物館

C組は、長野市川中島古戦場史跡公園にある長野市立博物館を訪ねました。主にご案内頂いたのは、竹下多美さんと陶山徹さん。まず、プラネタリウム解説員も務める陶山さんから、現在のお仕事についていきさつと、それを通じて得たご自身の生き方についてお話を頂きました。「今輝かなかっただらいつ輝くんだ、という言葉が印象に残りました。」「夢を追うために時間がかかっても、最終的に自分のなりたい仕事についてという点がすごいと思いました。」

続いて、館内見学と平成元年台風19号の洪水で水浸しになった古文書の応急処置を行いました。処置したのは江戸時代の本物の古文書。6つの班に一人ずつ、文化財レスキューボランティアの方がついての作業です。「水害で汚れた資料の応急処置がとても緊張しました。『もしかしたら、とても重要な資料があるかもしれませんから大事に』という話を聞き、本当に僕らが行ってよい作業なのかな(?)と思いました。」

昼食の後は、たわら編み体験と古民家ガイド。たわら編み体験も、午前とは別のボランティアの皆さんが班ごとについています。たわら編みは幼稚園生でも編めるものですが、幼稚園生でも簡単に編めるように数々の工夫が凝らされています。どのような工夫が仕組んであるのか？ その数々を竹下さんに語って頂きました。

最後は全員で、家でも学校でもない居心地の良い第三の場所「サードプレイス」について考えました。ここでも班ごとについてボランティアさんが議論をリード。大いに盛り上がりました。「歴史が好きなので、とても楽しかったです。今回は、私の将来の夢に向けて歩むきっかけになりそうです。」



### 中2夏の学2年D組：いづな歴史ふれあい館

D組は、長野市のおとなりの飯綱町にある、いづな歴史ふれあい館を訪ねました。迎えて頂いたのは館長の富樫均さん。NHK ブラタモリにも地質の専門家として登場した方です。

まずお聞きしたのが富樫さんの「人生と仕事」のお話。とても面白く、そしてわかりやすく、富樫さんがたどったキャリアを説明して下さいました。「密林探検家になりたいとおっしゃっていて、大学などで信州の地層の研究をしているうちに、自分の夢だった密林探検家に近づいていた、というお話が面白かった。」

続いての館内見学も、いつの間にか落とし穴に落ちた気分になってしまうなどの工夫が凝らされたものでした。

昼からいよいよ町内へ出発。霊仙寺湖畔の芝生の広場でお弁当を食べた後に苔翁寺へ。江戸時代に建てられたとは思えない精巧な彫刻の門を見た後、ワイナリーで有名なサンクゼールの丘からの雄大な眺めを堪能しました。生徒が乗るバスにも同乗して頂き、ガイドさんさながらの解説をして下さった富樫さん。D組の生徒達にも飯綱町への愛が伝わったようです。「飯綱町を知らなかったですが、たとえ小さくてもこんなに素敵な町があることを知りました。新たな発見ができたと思います。」「歴史と聞き、あまり面白くなさそうというのが本音だった。だがいろいろな場所に行き、独特な生き様をした富樫さんの話を聞いてとても面白かった。素敵な体験でした。ありがとうございました。」



### 2年E組：野尻湖ナウマンゾウ博物館

E組は、長野県上水内郡信濃町にある野尻湖ナウマンゾウ博物館を訪ねました。午前中は館長の近藤洋一さんのご講演。数々のエピソードがとてもリアルでわかりやすく、頭に思い浮かんだその時のようすから、生徒はいろいろなことに想像をめぐらせたようです。「ナウマンゾウの足跡の化石から歩き方まで予測できて、世界で初めてそのメカニズムを見つけたから足の部位に名前を命名できると知りロマンがあるな！と思った。」

また、近藤さんからは、研究者としての心得や、研究者の生き方、生き様とも言えるものについてお話頂

きました。このお話の内容が大変素晴らしく、同行した引率教員にまで感銘を与えるものでした。「『研究』という、感性とは程遠いと思っていたものが、実は感性や想像力と密接に関わっていて、逆に、理論や証明も、感性や想像力があるからこそできると分かった。」

午後の時間は、学芸員の関めぐみさんのご案内で屋外へ。地層が見える場所で火山灰を採取したあと博物館に戻り、野尻湖火山灰グループ著の「火山灰分析の手引き」を読みながら火山灰をクリーニング。顕微鏡を覗くとキラキラ光る鉱物の結晶を見ることができました。「いつも気にせず歩いている土の中に、宝石の赤ちゃんがたくさんあって驚きました。」



## 2年F組：長野県環境保全研究所飯綱庁舎

F組は、長野市の飯綱山にある長野県環境保全研究所飯綱庁舎を訪ねました。お迎え頂いたのは気候変動を研究する浜田崇さんと、哺乳類生態学を研究する黒江美紗子さん。それぞれのご研究の内容と、研究者になるにあたっての経緯を、いろいろなエピソードを交えてお話頂きました。「仕事の本当の意味や、子どものときに好きだった内容を仕事にする方法を先生から聞いたことが印象深かったです。」

その後は屋外と屋内の2グループに分かれて活動。屋外の自然散策路にある鳥の巣箱のふたを開けると、カマドウマがたくさん飛び出してきてびっくり。屋内では普段は入れないバックヤードに入れて頂き、クマの頭骨に触れ歯の鋭さを確かめたり、防虫剤のにおいがする植物標本庫に入り、20万点をはるかに超える標本の数々を見たりしました。「冷凍された動物の頭を見たこと。」「長野にしかない珍しい生物たち。飯綱庁舎での研究の様子（動物標本ができるまで）を思い出します。」



## 2年G組：一茶記念館、黒姫童話館、信濃町熊坂生活改善センター

G組は夏の学校2日目に、3か所を訪ねました。初めに訪れた信濃町の一茶記念館では、長野県環境保全研究所の陸斉さんから、野生鳥獣被害から考える環境負荷の少ない暮らし方についてのお話を頂きました。「明治から大正の間で戦争を行い、軍事服や革靴に動物の皮を使って野生動物がとても減ったことを知って、驚きました。それによって、昭和末期は野生動物被害のことを忘れてしまっていたことも衝撃です。逆に、江戸時代は野生動物被害への工夫がすごかったことも意外でした。」

続いて、信濃町地域おこし協力隊の坂井孝次さんから、信濃町に移住された理由や、地域の方々の活動を支援するお仕事のやりがいについてお話を頂きました。

次に信濃町の黒姫童話館に移動し、芝生広場で広大な景色を眺めながら昼食。絵本の世界を再現した童話館の展示も見学しました。

午後には信濃町の熊坂地区に移動。熊坂区長の北村さんの説明を聞きながら、2m近く積もるといふ冬の積雪のようすを思い浮かべました。地区に住む須坂さんには、昔ながらのご自宅に入れて頂き、冬は土間が冷蔵庫代わりになるといった話をお聞きしました。家の前の小川の水を飲むことができたり、野生鳥

獣を捕まえる檻を見たり、あぜ道にいるカエルを追いかけたりしました。

その後は信濃町生活改善センターに集合。2班に分かれ、北村さんと須坂さんを囲みながら、地域を見て感じた疑問についてお話を伺いました。「熊坂地区に住んでいる人々に質問に答えてもらい、家の中を見させていただいたことがとても印象に残っています。優しい人がたくさんいる町でした。」「会って現地で話すからこそ感じられる、地域の気候や地形といった背景を踏まえて解決案を考えることができました。とても楽しかったです。」

